

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 2月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204276		
法人名	有限会社 ネクストライ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	広島市中区千田町2丁目8-22 (電話) 082-545-5255		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204276-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年2月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

『愛・笑顔・元気・安心』という施設目標・スローガンを掲げ、入居者様一人ひとりが輝き、生きがいをもって【普通の生活】を送るための支援を行えるよう、個々の想いや家族様の想いを大切にしながら、季節ごとの行事や日々のレクリエーション活動を行っています。新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染対策の為、地域行事への参加は中止になり、地域交流が思うようにできていませんが、職員が「ユマニチュードケア」を実践し、入居者様との距離を縮めて寄り添い、入居者様にとって施設が「我が家」になるよう、一人ひとりの居場所を大切に安心して生活できるよう支援しています。面会制限のある中、家族様のご要望に応じて感染対策に努め対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

現在のコロナ禍による面会制限の中、事業所では家族の要望に基づき玄関内で10分程度の面会が可能となり、全体の2割強の再会が実現した。遠方の家族にも利用者の一筆又は職員の代筆を添えた手紙・電話のやり取りや画像を利用者が認識しにくい課題はあるもタブレット面会に挑戦する等、「できない理由を探さず、できる方法を考える」積極的な姿勢で他の家族との面会実現や普通の生活作りに取り組んでいる。コロナ禍により生活空間が狭まり、その閉じこもりがちな生活の弊害も考慮して利用者を理解し、役割・楽しみ事・気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。事業所内で出来る活動を工夫し、利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し自信に繋がる事を大切にしている。

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼・夕礼時に唱和を行っている。又、理念を基に施設目標を作成し、入居者様・家族様へのサービス向上に努めている。地域に対しても職員に地域密着の施設であり、地域の一員であることを自覚するために施設目標に織り込んでいる。	法人理念を事業所理念とし、申し送り時に唱和、又それをもとに策定した事業所年間目標をケア実践上の道標として掲示すると共に年度末にその目標を検証している。更にその目標を踏まえ職員も技能・1年後・3年後の目標を設定し、半期毎の個人面談にて振り返りを行い、気づきを促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事への参加・近隣保育園と入居者様の交流も定期的の実施していたが、現在はコロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、自粛している。感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩を中心に外出していただけるよう努めている。	事業所は町内会に加入し、回覧板等を通して地域情報を共有している。コロナ禍の緩和で利用者は日頃から散歩、近隣公園で花見や家族と受診等の一時外出で地域に出ている。又、家族の面会や運営推進会議に参加の同業他事業所等との意見交換等、地域との相互交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の社会資源である近隣保育園と施設の交流を月に一度、定期的の実施していたが、コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、自粛している。また感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩の頻度を増やして外出できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他事業所・地域包括支援センター・家族様・入居者様に参加して頂き、状況報告や施設の取組み・行事等を報告し、助言を頂く場に行っている。コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、開催は中止し報告のみ行っている。今後も地域の人等を含め参加者を増やして、様々な意見を多く聞き、取り入れていきたい。	会議は隔月に開催し、直近6回の内1回は対面会議で地域包括支援センター職員・同業の他事業所職員が参加し、コロナ禍での面会状況等の情報交換ができた。又他の5回は書面会議であり、参加できない全家族・町内会長・民生委員・交番職員・区消防署職員等に会議資料を送付している。	多様な職種の関与はあるが、関係委員への意見・質問依頼等もなく、事業所運営に関する意見交換が不十分である。報告項目の再検討や事故等の原因・対策の分析等、今後は地域の関係者から意見・提案が出しやすくなる会議資料や仕組み作りにより、効果的な会議の展開を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催参加案内や開催後には内容報告を行っている。運営については相談や助言は随時行っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回関与し情報共有をしている。市担当者とは日頃から相談・報告を行い、運営推進会議の開催報告書の送信や行政主催の集団指導等の研修会へオンラインで参加している。生活保護の利用者に対し担当職員の訪問もあり関係構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を2カ月に一度実施していきながら、正しいケアを職員が自覚して実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』が行われていないかのチェックシートを作成し実践している。これを基に管理者を中心に個々に面談等を行っている。</p>	<p>隔月の身体拘束委員会・研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し、独自の身体拘束・虐待防止点検表にて毎月事例検証を行っている。玄関は離設（施設から出て行ってしまふこと。）等による事故防止のため施錠し見守り対応としている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>主に内部研修を実施し、外部研修への参加についても機会の確保に努めている。スピーチロックや、虐待防止のチェックシート等を利用し、職員の意識の向上を図っている。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修を行い、権利擁護の知識を深めている。実際に入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃるため、日常の業務の中で理解をする機会がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項・運営規定を理解していただけるよう、説明している。その時点で質問があれば説明・補足を行い、その上で契約をしていただいている。解約時は面談を重ね、説明を行っている。また退居後の支援についても行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、運営推進会議自体は延期している。問題点や要望があれば早期解決を図り、報告をさせていただいている。カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき、日常のケアに反映している。家族様には電話や手紙等で近況報告をしている。</p>	<p>利用者の要望は普段の会話を通じて把握し、家族とは玄関での面会時・介護計画見直し時・電話連絡時・メール・運営推進会議・意見箱等で職員は意見を把握し、申し送りノート等で情報共有をしている。家族からコロナ禍での面会要請につき、制限付きながら再開となった経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度代表者を含めた管理者会議があり施設の状況・意見も交換の場が設けられている。その後リーダー会議・ユニット会議等で情報共有されるようにしている。定期的な会議を開催し現場の日々の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させている。	毎日の申し送り、定期的なリーダー会議・各種委員会、不定期のユニット会議、管理責任者との年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。滑り止めマットや服薬スプーンの導入の提案例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を聞き、業務に対する考え・意見の聞き取りを行い、給与査定・賞与査定の参考にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部・外部研修問わず、積極的な研修参加を促している。資格取得に関してかかる費用や研修費は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人内の他施設と研修を通じ様々な情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、当施設でも取り組むことが出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にご自宅・施設等に訪問をし、本人様・家族様と一回以上の面談を行っている。不安なこと・施設で生活される中でのご要望、職員がお手伝いさせて頂けることなどの話し合いを行い、関係づくりをさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり、見学時や契約時、面談の際に要望や質問へ応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき入居者様の状況を詳しく伺い、担当ケアマネジャーからも聞き取りを行い、ケアプランを作成しサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の尊厳を守りながら、共同生活の一員であることを認識して頂き『普通の生活』を送れるように、日々の中で会話をしたり、食事を食べたり、時には家事のお手伝いをして頂き、関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の『家族様と共に支援いたします』という目標を掲げ、面会に来られた家族様に状況報告を行う等、家族様との会話を大切にし、遠方の家族様には電話や手紙等で状況をお知らせし、家族様の要望を聞きながら、共に入居者様を支えていけるよう、関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	2ヶ月に1回、入居者様にも直筆で手紙やがきを書いていただき、決まった日に送るようにしている。書けない入居者様に関しては口頭で聞き、職員が代筆している。	訪問しやすい事業所・地域との絆を重視し、現在は感染対策を実施した上で玄関での面会が可能である。又、利用者の一筆又は職員の代筆を添えた手紙・電話のやり取りの他、家族協力のもと受診他の一時外出等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション・行事・外出支援等、交流が出来るようにし、ユニット内においても座る席を工夫し気軽に会話が出来よう考慮している。 食器拭き・洗濯たたみ等をしていただきながら会話していただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後もその後の経過、ご様子等を電話でお伺いして、相談を気軽にさせていただけるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に普段の様子等を職員から報告させていただいたり、カンファレンス時に本人様や家族様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行っている。現在、面会制限があるため、電話での情報収集に努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者と一緒に話すす中で思いを汲み取ってモニタリングやユニット会議・担当者会議に反映する等、思いの共有に努めている。意思の表出困難な利用者から見て取れる表情・仕草の裏にある思いを探り、本人本位の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を本人様・家族様・担当ケアマネより情報収集を行っている。他施設をご利用だった場合にはその施設に可能な限り出向き、担当者様からの話しも聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録や送りノートに記入し、朝夕礼時、職員間で情報共有している。できない事よりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見、課題等をケアプランに反映して支援を行っている。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように、医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしている。</p>	<p>家族が参加する適宜のカンファレンスや担当者会議で意見を集約し本案としている。毎月のモニタリングを管理者等が集約し、半年を基本に計画を見直している。立案の視点として馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に気になることや特変等を記録している。 職員間の情報共有は朝夕礼時の申し送り、連絡ノート等を利用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>インフルエンザ等感染対策の為、外出支援・個別支援としてお買い物にお連れしたり、家族様との外食・外出は自粛しているが、昼食にサンドイッチパーティー・おやつパーティーを行事の一環として開催をした。写真やお便りでご様子をお知らせしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>区民センター内にある図書館を利用したり、郵便局・スーパー・公園・神社等の地域資源を活用できるよう支援させていただいているが、インフルエンザ等の感染対策の為、資源の活用ができていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設協力医への主治医変更の意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。 随時、関係者と連携をとり受診や往診を行っている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが全利用者は協力医を主治医としている。内科又は歯科協力医からは週1回又は隔週の訪問診療があり、専門医の受診は主に家族の協力で行っている。定期的な訪問看護師の来訪もあり、医療連携ノートを活用して健康管理や看取りで連携をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と現場職員の連携を図るため医療連携ノートの活用を行いながら、往診時に連絡の漏れがないよう工夫をし、24時間訪問看護師と主治医との連絡がつくような体制を取り、現場職員が指示を受けて対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院先の相談員、家族との連絡を定期的に行い、再入居に向けて準備している。 また、定期的な電話連絡にて情報を病院関係者より提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針の書面を通して重度化した場合や看取りに対しての話し合いを行っている。重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様と担当者会議を行い、グループホームで出来得ることを理解していただいた上で支援を行っている。	要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に重度化した場合における対応に係る指針にて説明し理解を得ている。重度化した際には家族等、関係者で話し合いを行い、書面による同意のもと支援を行い、数例の経験もある。チーム支援を基本とし、看取り後の振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修・緊急時の対応の研修を行っている。緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っている。実地訓練を1回行い、あと1回は勉強会や施設内で自主避難訓練を行っている。 災害時には警備会社にも協力していただけるよう連携を取っている。	事業所は消防署の立ち会いを含め、年2回の火災・水害避難訓練を夜間想定、利用者も参加して行い、隔月に自主訓練を実施している。所内に3～5日分の備蓄をし、事業所のBCP（業務継続計画）を策定中である。災害時には避難場所として協力可能な旨を運営推進会議で報告している。	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人ひとりに周知していきけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時・就寝時等、個人のプライバシーが守られるように支援している。 又、身体拘束委員会等で事例を取り上げ、職員に周知している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり利用者に対する言葉かけも不適切な対応には指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。利用者名は居室の果物名で言い換える等、個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気気に気を配り、入居者様との会話を大切に、想いを汲み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度やレベルに合わせて個別レクリエーション・個別支援を行い、入居者様主体の生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に季節に合った洋服を準備していただき、好みの洋服を着ていただいている。2カ月に一度、訪問美容師にカットしていただいたり、希望に応じてカラーリングもしていただいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	軽作業（食器洗いや食事の盛り付け、皮むき、お茶の準備など）や買い物等、保持能力を活かしつつ、楽しい食事となるよう職員が声かけ支援している。行事の際、カレーライスやちらし寿司等を作り、目でも楽しんでいただけるよう、形・色合い等も工夫して提供している。	三食とも外部業者が調理した食材を事業所で加熱・提供し、行事食は担当職員が食材を購入・調理・提供している。月に一回嗜好調査を行い利用者の好みを反映している。利用者は盛り付け等、役割に応じた協力をを行い、月に一度の手作りおやつや中華料理の出前等、楽しみとなる工夫もある。	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が立てた献立を提供している。食事は入居者様に適した量を提供し、水分摂取量は記録により管理を行い確保している。入居者様の好みの水分(お茶・コーヒー・紅茶・ポカリスエット等)を提供し飽きないように摂取していただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い清潔保持を促している。希望者には訪問歯科を調整し、診察してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。日中はリハビリパンツやパットを使用し、夜間はセンサー活用し、トイレ誘導を行っている。歩行可能な方は体操の中に足踏み等を取り入れ、生活リハビリを行っている。	排泄記録表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。入院中の紙おむつから紙パンツへの移行や夜は紙おむつ・昼間は紙パンツ対応等、状態に応じた自立支援をしている。トイレに跳ね上げ式の前方手すりや排泄時の転倒防止の為、居室に人感センサー設置等の環境整備もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動を促し自然排便できるよう取り組んでいる。排便コントロールについては、主治医や訪問看護師と連携し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	清潔保持の為、週2~3回入浴できるよう支援している。体調不良の方は清拭と陰洗を行い、足浴等も実施している。入浴剤等を使用して入浴が楽しめるよう工夫をしている。	週2~3回の午後浴が基本だが、利用者の体調・入浴習慣・事業所行事等に合わせ柔軟に対応している。利用者負担を考慮しシャワー浴や足浴等に対応したり、据え置き式家庭浴槽の出入りし易い位置に数本の縦・横手すり設置や季節を感じられる様、冬至に柚子湯を提供する事もある。	

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間に捕らわれず、入居者が自宅で生活しておられた生活リズムで施設でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理表を用いて服薬漏れがないようにしている。又、誤薬がないよう二重確認をしている。入居者様の前にて声を出して日にち・名前・錠数・○食後等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜好品を持参していただいている。掃除や食器洗い等、利用者様に手伝って頂いてる。またコロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、散歩のみ行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、家族様との買い物や食事、外出、外泊は自粛している。現在は買い物を控え、散歩のみ実施している。	コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で近隣公園等を散歩し、花壇の花に季節を感じている。家族の協力も得ながら受診・一時帰宅等、特別な事情による外出により、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失等の事故を防ぐため家族様と相談して事務所でお金を預かり、外出支援の時に入居者様にお渡しして買い物を楽しんでいただいていたが、コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、職員が代わりに入居者様の希望する物を購入するようにしている。収支は毎月、家族様に報告させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(GHきらら 1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月家族様宛に手紙を準備し、できるだけ入居者様に手紙を書いていただき、発送している。また、ご希望があれば電話をかけることもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた掲示物や装飾を行い、季節感を演出している。湿度は40%前後、室温は25度を保てるように調整をしている。ソファを置いてくつろげるようにしている。入居者様と共同して季節に応じた飾りをフロアに飾る等配慮している。	季節行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品、プランターの野菜等で季節の移ろいが感じられる様配慮し、対面キッチンから漂う料理の音や匂いの中で居心地よく過ごせる様工夫をしている。レースのカーテンで直射日光を和らげ、感染症対策で1時間毎に窓を開け換気に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でも決まりごとではなく、利用者様が自由に過ごせるように配慮をしている。リビングにソファを置き、自由に座って頂きゆっくりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居契約時に、慣れ親しんだものを持参していただき、施設なじめるように工夫している。家族様の写真や家具等、居室に置いて、居心地の良い空間を作っている。フルーツや花のプレートをかけ、識別しやすい工夫をしている。	居室にはベッド・洋服ダンス等が備え付けられ、布団等、使い慣れた物や木彫りダンス等、好みの物を持ち込み過ごし易くしている。又、他利用者の居室と間違えない様、扉に果物・花の表札を掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレ洗面所・お風呂があり、わかりやすく移動しやすい動線になっている。トイレは表札を作り見えやすいようにしている。台所もユニット内にあり、食事を準備する音や匂いが感じられるようになっている。		

V アウトカム項目(グループホームきらら1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼・夕礼時に唱和を行なっている。又、理念を基に施設目標を作成し、入居者様・家族様へのサービス向上に努めている。地域に対しても職員に地域密着の施設であり、地域の一員であることを自覚するために施設目標に織り込んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事への参加・近隣保育園と入居者様の交流も定期的実施していたが、現在はコロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、自粛している。感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩を中心に外出していただけるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の社会資源である近隣保育園と施設の交流を月に一度、定期的実施していたが、コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、自粛している。また感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩の頻度を増やして外出できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他事業所・地域包括・家族様・入居者様に参加して頂き、状況報告や施設の取組み・行事等を報告し、助言を頂く場に行っている。コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、開催は中止し報告のみに行っている。今後も地域の人等を含め参加者を増やして、様々な意見を多く聞き、取り入れていきたい。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催参加案内や開催後には内容報告を行っている。運営については相談や助言は随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を2カ月に一度実施していきながら、正しいケアを職員が自覚して実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』が行われていないかのチェックシートを作成し実践している。これを基に管理者を中心に個々に面談等を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	主に内部研修を実施し、外部研修への参加についても機会の確保に努めている。スピーチロックや、虐待防止のチェックシート等を利用し、職員の意識の向上を図っている。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行ない、権利擁護の知識を深めている。実際に入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃるため、日常の業務の中で理解をする機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項・運営規定を理解していただけるよう、説明している。その時点で質問があれば説明・補足を行ない、その上で契約をしていただいている。解約時は面談を重ね、説明を行なっている。また退居後の支援についても行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、運営推進会議自体は延期している。問題点や要望があれば早期解決を図り、報告をさせていただいている。カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき、日常のケアに反映している。家族様には電話や手紙等で近況報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度代表者を含めた管理者会議があり施設の状況・意見も交換の場が設けられている。その後リーダー会議・ユニット会議等で情報共有されるようにしている。定期的な会議を開催し現場の日々の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を聞き、業務に対する考え・意見の聞き取りを行い、給与査定・賞与査定の参考にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部・外部研修問わず、積極的な研修参加を促している。資格取得に関してもかかる費用や研修費は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人内の他施設と研修を通じ様々な情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、当施設でも取り組むことが出来ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にご自宅・施設等に訪問をし、本人様・家族様と一回以上の面談を行っている。不安なこと・施設で生活される中でのご要望、職員がお手伝いさせて頂けることなどの話し合いを行ない、関係づくりをさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり、見学時や契約時、面談の際に要望や質問へ応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき入居者様の状況を詳しく伺い、担当ケアマネージャー様からも聞き取りを行い、ケアプランを作成しサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の尊厳を守りながら、共同生活の一員であることを認識して頂き『普通の生活』を送れるように、日々の中で会話をしたり、食事を食べたり、時には家事のお手伝いをして頂き、関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の『家族様と共に支援いたします』という目標を掲げ、面会にいられた家族様に状況報告を行う等、家族様との会話を大切にし、遠方の家族様には電話や手紙等で状況をお知らせし、家族様の要望を聞きながら、共に入居者様を支えていけるよう、関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	2ヶ月に1回、入居者様にも直筆で手紙やはがきを書いていただき、決まった日に送るようにしている。書けない入居者様に関しては口頭で聞き、職員が代筆している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション・行事・外出支援等、交流が出来るようにし、ユニット内においても座る席を工夫し気軽に会話が出来よう考慮している。 食器拭き・洗濯たたみ等をしていただきながら会話していただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後もその後の経過、ご様子等を電話でお伺いして、相談が気軽にさせていただけるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に普段の様子等を職員から報告させていただいたり、カンファレンス時に本人様や家族様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行なっている。現在、面会制限あるため、電話での情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を本人様・家族様・担当ケアマネ様より情報収集を行なっている。他施設をご利用だった場合にはその施設に可能な限り出向き、担当者様からの話しも聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録や申し送りノートに記入し、朝夕礼時、職員間で情報共有している。できない事よりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見、課題等をケアプランに反映して支援を行っている。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように、医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に気になることや特変等を記録している。 職員間の情報共有は朝夕礼時の申し送り、連絡ノート等を利用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>インフルエンザ等感染対策の為、外出支援・個別支援としてお買い物にお連れしたり、家族様との外食・外出は自粛しているが、昼食にサンドイッチパーティー・おやつパーティーを行事の一環として開催をした。写真やお便りでご様子をお知らせしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>区民センター内にある図書館を利用したり、郵便局・スーパー・公園・神社等の地域資源を活用できるよう支援させていただいているが、インフルエンザ等の感染対策の為、資源の活用ができていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設協力医への主治医変更の意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。 随時、関係者と連携をとり受診や往診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と現場職員の連携を図るため医療連携ノートの活用を行いながら、往診時に連絡の漏れがないよう工夫をし、24時間訪問看護師と主治医との連絡がつくような体制を取り、現場職員が指示を受けて対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院先の相談員、家族との連絡を定期的に行い、再入居に向けて準備している。 また、定期的な電話連絡にて情報を病院関係者より提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針の書面を通して重度化した場合や看取りに対しての話し合いを行っている。重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様と担当者会議を行ない、グループホームで出来得ることを理解していただいた上で支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修・緊急時の対応の研修を行っている。緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っている。実地訓練を1回行い、あと1回は勉強会や施設内で自主避難訓練を行っている。 災害時には警備会社にも協力していただけるよう連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人一人に周知していきけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時・就寝時等、個人のプライバシーが守られるように支援している。又、身体拘束委員会等で事例を取り上げ、職員に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気や気を配り、入居者様との会話を大切に、想いを汲み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度やレベルに合わせて個別レクリエーション・個別支援を行ない、入居者様主体の生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に季節に合った洋服を準備していただき、好みの洋服を着ていただいている。2カ月に一度、訪問美容師にカットしていただいたり、希望に応じてカラーリングもしていただいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	軽作業（食器洗いや食事の盛り付け、皮むき、お茶の準備など）や買い物等、保持能力を活かしつつ、楽しい食事となるよう職員が声かけ支援している。行事の際、カレーライスやちらし寿司等を作り、目でも楽しんでいただけるよう、形・色合い等も工夫して提供している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士が立てた献立を提供してい る。食事量は入居者様に適した量を提供 し、水分摂取量は記録により管理を行な い確保している。入居者様の好みの水分 (お茶・コーヒー・紅茶・ポカリスエッ ト等)を提供し飽きないように摂取してい ただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い 清潔保持を促している。 希望者には訪問歯科を調整し、診察して もらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄 パターンを把握し、トイレ誘導を行なっ ている。日中はリハビリパンツやパット を使用し、夜間はセンサー活用し、トイレ 誘導を行なっている。歩行可能な方は 体操の中に足踏み等を取り入れ、生活リ ハビリを行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動を促し自然排便できるよ う取り組んでいる。 排便コントロールについては、主治医や 訪問看護師と連携し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	清潔保持の為、週2~3回 入浴できるよ う支援している。 体調不良の方は清拭と陰洗を行ない、足 浴等も実施している。入浴剤等を使用し て入浴が楽しめるような工夫をしてい る。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間に捕らわれず、入居者が自宅で生活しておられた生活リズムで施設でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理表を用いて服薬漏れがないようにしている。又、誤薬がないよう二重確認をしている。入居者様の前にて声を出して日にち・名前・錠数・○食後等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜好品を持参していただいている。掃除や食器洗い等、利用者様に手伝って頂いてる。またコロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、散歩のみ行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、家族様との買い物や食事、外出、外泊は自粛している。現在は買い物を控え、散歩のみ実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失等の事故を防ぐため家族様と相談して事務所でお金を預かり、外出支援の時に入居者様にお渡しして買い物を楽しんでいただいていたが、コロナ・インフルエンザ等感染症対策の為、職員が代わりに入居者様の希望する物を購入するようにしている。収支は毎月 家族様に報告させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームきらら 2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>毎月家族様宛に手紙を準備し、できるだけ入居者様に手紙を書いていただき、発送している。また、ご希望があれば電話をかけることもしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に応じた掲示物や装飾を行い、季節感を演出している。湿度は40%前後、室温は25度を保てるように調整をしている。ソファを置いてくつろげるようにしている。入居者様と共同して季節に応じた飾りをフロアに飾る等配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間でも決まりごとではなく、利用者様が自由に過ごせるように配慮をしている。リビングにソファを置き、自由に座って頂きゆっくりされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居契約時に、慣れ親しんだものを持参していただき、施設になじめるように工夫している。家族様の写真や家具等、居室に置いて、居心地の良い空間を作っている。フルーツや花のプレートをかけ、識別しやすい工夫をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ユニット内にトイレ洗面所・お風呂があり、わかりやすく移動しやすい動線になっている。トイレは表札を作り見えやすいようにしている。台所もユニット内にあり、食事を準備する音や匂いが感じられるようになっている。</p>		

V アウトカム項目(グループホームきらら 2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームきらら

作成日 令和6年3月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	利用者様の状況把握、急変時対応。	利用者様のバイタル変化や身体状況などの把握。急変時、訪看や医師への伝達。	身体状況やバイタルなどに変化がある方の注意喚起。医師等への連絡方法の確認。	1年
2	3	運営推進会議の事故・ヒヤリへの意見交換不足。	各事業所と事故・ヒヤリの意見を募り、事故防止へ努める。	事故・ヒヤリの事故状況や発生原因等を要約し各事業所へ送付する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。